

連載

8

在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (62歳・内科)

『老人の性』 高齢者施設でのお話です。



ある日、介護スタッフから緊急連絡がありました。「先生大変です!上田美代子さん(86歳・仮名)の部屋に山田幸男さん(78歳・仮名)がベッドを運び入れようとしています。」——介護スタッフの話では、お二人は施設に入院されて3ヵ月経ったころ親しくなったようです。常にどちらかの部屋で仲良く過ごされていましたが消灯時には自室に戻るようお願いしてきたとのことでした。ところが最近ではまるでご夫婦のような大人のしぐさが見られる時もあったので、それをやめていただくよう若い介護スタッフが指導したようです。すると、同じ部屋で生活するためベッドを運び入れるという実力行使に出て今回の“大事件”となったわけです。

40代の女性管理者そして50代の私では力量不足。人生

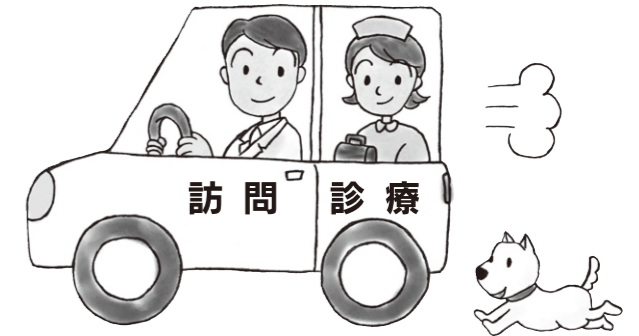
経験豊かで信頼のできる60代のパートヘルパーさんに相談をしてみると、瞬く間に問題のお二人は冷静さを取り戻したのです。その後、社会通念上の親しさを保ちながら高齢者施設で何事も無く過ごされることができました。

人間も生命体であり、個を生かすため自己防衛上、周囲に対し“ねたみ”の感情を持ち、また“種”の保存上、本能的に“性”行為は“死”の直前まで廃れません。

20年前、厚生省の研究班が“老人の性”についてデータをとっていたのは現在のような急速な高齢化社会到来をふまえてのことでした。介護医療は高度医療・技術だけでは解決できません。

年輪を感じさせる徳を持った諸先輩の“叡智”も大変重要と思われます。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>